

新見市 神郷町油野 「大成山たたら」を訪ねて

2008.3.15.



中国山地のたたら遺跡の中で、是非とも言ってみたい たたら遺跡 新見市神郷町 大成山たたら。

中国山地の脊梁備北を西から東へ 大万木山-猿政山-比婆山-道後山・三国山-蒜山-人形峠へと続く山並みは 南側の広島県・岡山県と北側の島根県・鳥取県を隔てる分水嶺・県境尾根で、この山塊から流れ出る幾筋もの大河の流域には古代から栄えた製鉄地帯 北側に石見・奥出雲・伯耆のたたら製鉄地帯 南側には 芸北・備後・備中・美作の製鉄地帯が広がっている。特に 中国山地から吉備の流れ下って児島湾に注ぐ3つの大河 吉井川 旭川 高梁川が、その源流部の中国山地の砂鉄を原料に 古代から たたら製鉄を発展させ、そして 後世には、山を切り崩し砂鉄採取による大量の土砂が、広大な岡山平野を形成し、児島湾干拓を可能にした。

この中国脊梁の山並みの中、4つの県境が接する道後山塊からはその南東岡山県側へ 三室川が流れ下り、備中の山奥「新見」の南で高梁川と合流して吉備の中央を瀬戸内海へ流れ下る。この岡山県北西部 新見の後背地は、高梁川流域(高梁市、上房郡、川上郡、阿哲郡)を領有した備中高梁藩が営む近世の製鉄地帯で芸北・奥石見・奥出雲や美作・北播磨など中国山地に建ち並ぶ製鉄地帯のひとつである。

「大成山たたら」は三室川沿い新見市神郷町油野にある備中高梁藩のたたら場の一つ。中国山地のたたら遺跡を色々訪ねたが、この新見周辺だけが空白になっていた場所である。

また、上記した中国山地脊梁の県界尾根を昔春の残雪期に歩き、道後山から新見に下ったことがあり、新見から井倉洞や満奇洞など伯備線が通る高梁川沿いは何度も通ったことがあるのですが、知ってはいたもののたたら遺跡について意識したことなし。何年か前に吉備の中山を訪ねて そこにある古代吉備文化財センターで、ダム湖の中に沈んだこの大成山たたらの紹介と高殿の模型を見て、高梁川沿いのたたらとして気になっていました。ついながら、ここ数年 青春18切符がでると、これで旅する機会が増えたのですが、「新見」は日帰りできる一番端の町として、出掛けようと・・・。



インターネットに備中地域の観光ルートとして吉備の「鉄の径」が掲載され、大成山たたらが紹介されているのも見て、3月15日 晴天の夜明け 青春18切符を手に山陽線の新快速に飛び乗って新見へ。

匠の章
大成山たたら場を中心とする
備中北部のたたら製鉄について

備中松山藩の財政改革の担当前として幾々な改革を断行した山田方谷は、藩の負債整理にあたり、備中各地に隠された引き出しを準備させた。この提案が受け入れられた理由として、領地の備中北部地域でたたら製鉄の原料となる炭の砂鉄と燃料の木炭が豊富に入手できたことが挙げられる。まさに備中藩は「備中の鉄」を投資の対象と捉えたのである。方谷も商人たちの情に訴えるため、藩内の産業振興に力を注ぐ。

上方商人に藩の債権棚上げを決意させた「備中の鉄」

備中松山藩の財政改革の担当前として幾々な改革を断行した山田方谷は、藩の負債整理にあたり、備中各地に隠された引き出しを準備させた。この提案が受け入れられた理由として、領地の備中北部地域でたたら製鉄の原料となる炭の砂鉄と燃料の木炭が豊富に入手できたことが挙げられる。まさに備中藩は「備中の鉄」を投資の対象と捉えたのである。方谷も商人たちの情に訴えるため、藩内の産業振興に力を注ぐ。

備中松山藩の財政改革の担当前として幾々な改革を断行した山田方谷は、藩の負債整理にあたり、備中各地に隠された引き出しを準備させた。この提案が受け入れられた理由として、領地の備中北部地域でたたら製鉄の原料となる炭の砂鉄と燃料の木炭が豊富に入手できたことが挙げられる。まさに備中藩は「備中の鉄」を投資の対象と捉えたのである。方谷も商人たちの情に訴えるため、藩内の産業振興に力を注ぐ。

備中松山藩の財政改革の担当前として幾々な改革を断行した山田方谷は、藩の負債整理にあたり、備中各地に隠された引き出しを準備させた。この提案が受け入れられた理由として、領地の備中北部地域でたたら製鉄の原料となる炭の砂鉄と燃料の木炭が豊富に入手できたことが挙げられる。まさに備中藩は「備中の鉄」を投資の対象と捉えたのである。方谷も商人たちの情に訴えるため、藩内の産業振興に力を注ぐ。

大成山たたら場

備中北部のたたら製鉄について

備中松山藩の財政改革の担当前として幾々な改革を断行した山田方谷は、藩の負債整理にあたり、備中各地に隠された引き出しを準備させた。この提案が受け入れられた理由として、領地の備中北部地域でたたら製鉄の原料となる炭の砂鉄と燃料の木炭が豊富に入手できたことが挙げられる。まさに備中藩は「備中の鉄」を投資の対象と捉えたのである。方谷も商人たちの情に訴えるため、藩内の産業振興に力を注ぐ。

備中松山藩の財政改革の担当前として幾々な改革を断行した山田方谷は、藩の負債整理にあたり、備中各地に隠された引き出しを準備させた。この提案が受け入れられた理由として、領地の備中北部地域でたたら製鉄の原料となる炭の砂鉄と燃料の木炭が豊富に入手できたことが挙げられる。まさに備中藩は「備中の鉄」を投資の対象と捉えたのである。方谷も商人たちの情に訴えるため、藩内の産業振興に力を注ぐ。

大成山たたら遺跡群・高殿たたら跡

遺跡は現在三宮市にあり、目にすることはできないが、大岡山遺跡が四宮管理事務所（新見市神郷油野3419-11番）に復元展示されている。

長岡藩改革の立役者 河井継之助も実見した中国山地のたたら場

まず藩内に新設した備中局により、彼の生産、販賣に力を注ぎ、財政再建の一翼を担った。そのころ方谷の門下となつたのが、後援長岡藩藩老の河井継之助。

備中松山藩の財政改革の担当前として幾々な改革を断行した山田方谷は、藩の負債整理にあたり、備中各地に隠された引き出しを準備させた。この提案が受け入れられた理由として、領地の備中北部地域でたたら製鉄の原料となる炭の砂鉄と燃料の木炭が豊富に入手できたことが挙げられる。まさに備中藩は「備中の鉄」を投資の対象と捉えたのである。方谷も商人たちの情に訴えるため、藩内の産業振興に力を注ぐ。



江戸時代の備中松山藩(高梁)の財政立て直しの主役になった
大成山たたらなど 新見のたたら製鉄

鉄の径

備中松山藩の財政改革の担当前として幾々な改革を断行した山田方谷は、藩の負債整理にあたり、備中各地に隠された引き出しを準備させた。この提案が受け入れられた理由として、領地の備中北部地域でたたら製鉄の原料となる炭の砂鉄と燃料の木炭が豊富に入手できたことが挙げられる。まさに備中藩は「備中の鉄」を投資の対象と捉えたのである。方谷も商人たちの情に訴えるため、藩内の産業振興に力を注ぐ。



備中のブランド牛「千屋牛」

岡山県民局「鉄の径」より
また、新見のたたらを調べていて、岡山県名産の和牛「千屋牛」を知りました。千屋牛は、江戸時代阿哲郡千屋村（現新見市千屋）で盛んであった鉄山業で労役牛として使われていた。千屋地区は大成山たたらがある油野・三室地区とは高梁川の本流が流れる谷あいをはさんで東側にあり、ここでは、古くから豊富な砂鉄採取の地で、たたら製鉄が古くから営まれていた。長年にわたる砂鉄採取の跡は、なだらかな高原状の地となり、良質の草が生え、牛の飼育に適した土地となり、古くから牛の生産が盛んであった。

千屋牛は元来小型で少産の牛であったが、品種改良により、大型で頑強・多産で気質のおとなしい牛となり、また、但馬産の優れた種牡牛を導入するなど、当時としては革新的な改良技術により「網もとらねば四足も見ぬが千両かけましょ千屋の牛」と歌に詠まれるほどの名牛になっていったという。

このような話を聞くと兵庫県の北播磨・但馬や丹後など和牛の名産地であるが、同時にたたら製鉄の盛んな土地であり、たたら製鉄と和牛とは密接なかわりがあったのかも知れぬ。

江戸時代 この千屋の地で、鉄残業を営むかたわらこの千屋牛の改良・繁殖に尽くした太田辰五郎の功績が大きいといわれる。

1. 岡山・倉敷から伯備線に乗って 高梁川沿いを新見へ



備中を中国山地から南北に流れ下る高梁川 2008. 3. 15.



岡山で 9 時 18 分発新見行の普通電車に乗り換えて、倉敷・総社を過ぎると、電車は備中を南北に流れ下る高梁川に沿って中国山地の谷あいの中へ入ってゆく。約 2 時間 車窓を眺めながらのゆったりした旅である。まだ、全体の芽吹きにはちょっと早いですが、灰色の中にうっすらと緑が混じり、真っ青な水がとうとう流れ下る高梁川といいコントラストを作り出して、早春の美しい風景。多分 中国山地の雪解け水だろう。こんなに水量豊かに流れ下る川をみるのも久しぶりである。約 1 時間ほどで、備中高梁につき、多くの乗客がここで降りる。これから先は さらに中国山地奥深く、ほとんど平地がない狭い谷間を抜けてゆく。このあたりは石灰岩質の地形で、井倉洞・満奇洞などの鍾乳洞がある。とにかく芽吹き始めた山々やそり立つ白い岩の間を流れ下る高梁川の流が実に素晴らしく、眺めていても飽きない。



伯備線 高梁-新見間の車窓から見る高梁川と芽吹き始めた山々 2008. 3. 15.

高梁から山又山の中を走り抜け、井倉洞のある井倉駅を過ぎるともうすぐ、新見。新見で約 15 分ほど待って、さらに伯備線を県境に向って 2 駅行けば、大成山たたらへの入り口の駅「足立」である。事前に大成山たたらが沈む三室川ダムの事務所や新見市に電話で聞いたのですが、足の便無く、地図を頼りに歩くしかない。地図から見れば、さほどきついのもりもなく、1 時間ちょっとのハイキング。まあ、何時もの事ながら「どないかなるやろ」である。

(新見の次の神代駅から朝夕 2 本づつこの地域の人たちの便として新見市営バスがあるのですが、屋間はまったく便がなく、新見よりタクシーを使わないと行けないとリコメンド。 ちょっとタクシーでは距離がある。)

地図を見ながら そんなことを考えていると、新見のひとつ手前の「石蟹」駅。

山の中に「蟹」の名前がつく不思議な駅で、今回までまったく知らなかった駅でしたが、岡山県民局の出した PR 冊子「鉄の径」によるとこの「石蟹」もたたら製鉄関連の地名で、「カネ」が「カニ」に転化し、「蟹」に当て字されたもので、砂鉄や鉄に関連するという。



「金山」や「鍛冶」「たたら」など鉄に関連する地名を少しは知っていましたが、「蟹」についてはまったく知りませんでした。

また、大成山たたらへ三室川沿いにさかのぼってゆく途中にある「重藤」の「藤」も又製鉄関連地名だという。

「藤」は中国地方での表現「オドロ 藤・葛」はつる植物の事を指し、鉄穴流しでは藤で編んだ筵を水路に敷いて、流すと筵の目から下に落ち、砂鉄選鉱には欠かせず、近藤・藤砂・於土路などの地名例があるという。



三室川沿の重藤・下油野地区 2008. 3. 15.

新見は中国脊梁山脈に近接し、中国山地から流れ下ってきた高梁川本流が、すぐ西の神代で神代川 足立で三室川を合流する西川や東側から流れ込む熊谷川が合流する地点にあり、古くから 西の備後・芸北・出雲 北の伯耆 東の美作と南の高梁・備中を結ぶ街道の結節点であった。今も伯備線・姫新線・芸備線がクロスする交通の十字路であり、また中国縦貫道が東西に街を走りぬけ、かつての賑わいはないが、中国山地の中の中核都市である。

新見を出て、伯備線はさらに北へ 高梁川本流の西となりの谷あいの西川沿いを、まっすぐ鳥取との国境へ向う。一番山深いところで、この山中には大量の砂鉄があり、かつて、この周囲の山々の谷筋で、たたら製鉄が営まれ、生産された「鉄」が高梁川を使って、備中に運ばれた。

資料によれば、近世 備中・美作の鉄山は隆盛を極め、また、周辺中国山地のたたら製鉄群がこの中国山中で砂鉄採取のため、山を切り崩した量もすさまじく、流れ下る川により海岸部に運ばれた土砂も相当な量であり、この期に 広島・出雲・岡山・米子などの平野部が海へ海へと広がったといわれる。

資料

「1701～1920年におけるたたら製鉄による掘り崩し土砂量と鉄生産高(鍊鉄換算)」

出典 岡山県史 自然風土 P48 表3

1701～1920年におけるたたら製鉄による掘り崩し土砂量と鉄生産高(鍊鉄換算)

	土砂量(百万m3)	鉄生産高(万t)
安芸国	5	1
備後国	366	66
備中国	106	19
美作国	91	16
播磨国	43	7
石見国	394	67
出雲国	251	45
伯耆国	252	45
合計	1,508	266



資料 「近世期 備中・美作における鉄山の分布」

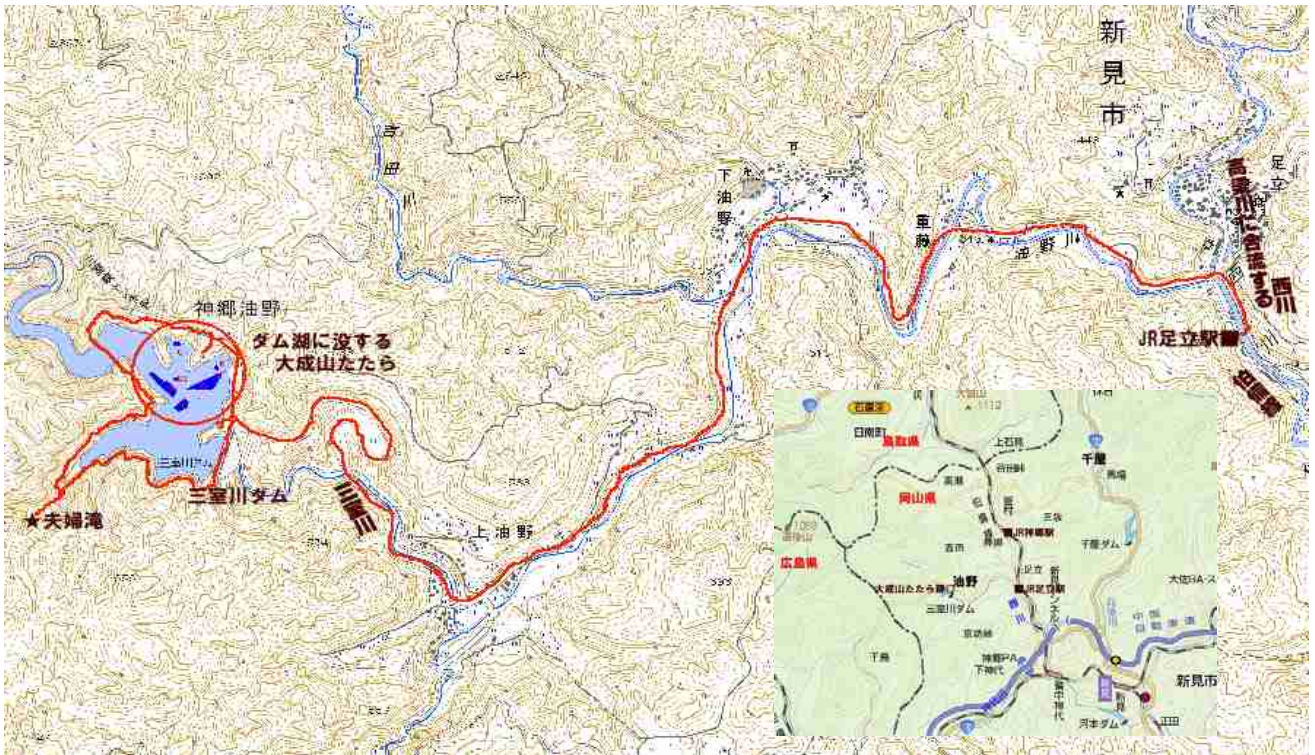
出典 (「岡山の自然と文化 郷土文化講座から」 10 岡山県郷土文化財団 近世のたたら製鉄 岡山県立博物館主任 田村啓介 P217) 平成3年3月1日 発行)

近世期の岡山県下の鉄山分布

番号	鉄山名	所在地	稼業期
1	永昌山 鉄山	吉野郡 大茅村	元禄～明治 期
2	大村谷 同 ○	東北条郡 下津川村	寛政 ～
3	大地原 同	西北条郡 越畑村	安永 ～
4	といが谷 同	西西条郡 上斎原村	1740年(元文5)～
5	人形仙 同	同 上	1714年(正徳4)～
6	みつこ原 同	同 下斎原村	1739年(元文4)～
7	おろ 同	同 奥津川東村	1740年(同 5)～
8	和泉権現山 同	同 義野村	1739年(同 4)～
9	千間原 同	同 羽出村	1714年(正徳4)～
10	睦合山 同 ○	同 上	1846年(弘化3)～
11	×増山 同 ○	同 上	1834年(天保5)～
12	大倉山 同 ○	同 富西谷村	天保 ～
		大倉分	
13	東根山 同	大庭郡 田羽根村	1834年(天保5)～
14	見谷山 同	同 社 村	1814年(文化11)～
15	金原山 同	同 上	同 上
16	日尾山 同 ○	真庭郡 小童谷村	1847年(弘化4)～
17	だごこ山 同	同 鉄山村	1714年(正徳4)～
18	黒田山 同 ○	同 黒田村	嘉永 ～
19	野土路山 同 ○	同 新庄村	1853年(嘉永6)～
20	土用山 同 ○	同 上	宝永～明治 期
21	扇谷山 鑛	阿賀郡 井原村	1827年(文政10)～
22	鑄長山 同	同 美 村	安政～明治 期
23	安明地山 同 ○	同 上熊谷村	1853年(嘉永6)～
24	久坂山 同 ○	哲多郡 釜 村	1821年(文政4)～明治 期
25	三宝山 鉄山 ○	同 油野村	1824年(文政7)～
26	金沢山 同 ○	同 下神代村	1837年(天保8)～

注 ○印 藩営鉄山

2. 足立駅から三室川を遡って 大成山たたら跡へ



新見駅で米子行の電車に乗り換える。電車は高梁川の本流から離れて神代から、ひとつ山越しの西の谷を流れ、新見の南で本流と合流する西川沿いを北へ。やはり、水量の多い西川が狭い谷をながれくさる。

10分ほどで、足立駅。狭い谷の斜面の中ほどにへばりついて駅があり、谷の中を線路に沿って西川と道路があるだけ。

谷の中の駅で、米子と新見をつなぐ幹線道路であるが、時折車がとおるだけで、谷間に川の流れがトウトウと響いているのみ。駅のホームに一人座って、地図を眺めながら、川の流れを見る。

地図によると駅のすぐ北で西から三室川(油野川)がながれこんでおり、この川に沿って、遡れば大成山たたら跡が沈むダム湖。又、川を挟んで東側の山間をつめてゆくと、高原状の山の斜面を利用して、備前のブランド牛「千屋牛」を育てる産地が広がるという。この千屋牛の産地が広がる高原状の地形は大量の砂鉄採取により形成された跡といわれ、かつてはこの山間にもたたら製鉄や砂鉄採取場が広がっているという。もっとももうほとんど痕跡は見られず、山中に入ると鉄滓が散在していたり、砂鉄採取の地形や伝承・古文書などにより 知れる程度であるという。

この千屋へいたる道も興味があるのですが、今回は反対側の西側の山間の大成山たたらを訪ねる。この大成山たたら跡も伝承地をダム工事に先立つ



足立駅より北側 米子方面県境側



足立駅より南側 神代・新見方面側

事前調査で、しかも民間人の予備調査で出土したのが最初という。

電話で聞いたとおり、山中。もう歩くしかない。帰りの電車の便数も気になるが、まあいつもの気ままな Walk。

印を付けておいた地図を見ながら約 2 時間ほどのハイク。川に沿って歩き出す。

駅のすぐ北で西から三室川が流れ込み、三室・東城の標識が見える。まっすぐそのまま西川に沿って遡れば、神郷から鳥取県へ県境を越えて行く。東城は広島県だし、広島県・岡山県・鳥取県が境を接する中国山地の最北部である。

ここで、西に伯備線の鉄橋をくぐって、三室川沿いに進む。この三室川も雪解け水を集めて、西川に急流となって注ぎ込んでいる。

上流のダム建設で道が改良されたのだろうか、きれいな道路が西へのび、大成山たたら沈む三室ダム湖を越えて、岡山・広島県境を越えて行く。谷筋は広い河岸段丘状の平地のある明るい谷で、川の両側の狭い平地には田畑が広がり、緩やかな登りの道がほぼまっすぐ奥へ奥へと伸び、重藤・下油野・上油野の集落が点々と続くのどかな山裾の風景。

中国山地の県境尾根近く、ダム湖へ登る道筋なので、つづら折れのきつい山道を思い描いていたが、拍子抜け。周りの田園風景を楽しみながら登ってゆく。地図によると正面に昔登ったことのある道後山が県境にあるのですが、周囲の山で見えない。ダム建設で、道路と共に流れ下る川の護岸や周辺部も整備されたのだろう、人工的な護岸が筒木、その中を川幅一杯に急流が流れくんだり、砂地の場所が見えない。砂鉄がこの川からも取れるかもしれないと期待していたのですが、ダメでした。



足立駅北の西から三室川が流れ込む合流点



明るい谷間を三室川が流れ下る 重藤周辺 2008. 3. 15.



でも、道路わきの道少し黒くなっている側溝の砂に磁石を近づけると砂が少し、吸い付けられる。

大量ではないが、やっぱり砂鉄がある。道端の畑の人にたたら跡が、この川筋に残っているか聞いてみるが、ダム湖に沈んだ大成山のたたら話が聞けるのみで、もっと奥に行けば、たたら跡が残っているかもしれないが、この川筋にはもう残っていないという。これだけきれいに川筋が整備されれば、もうこの川近くでは見つからないのだろう。

下油野の集落はずれで、北へ吉田集落への道と分かれる。

この奥にもたたら跡があつ他と聞かぬが、よくわからぬ。

下油野を過ぎるとちょっと傾斜がきつくなり、行く手がなだらかな山でさえぎられ、その下に上油野の集落があり、道が Y 字になって消えている。三室川ダムの標識も見える。この正面の山並の中にダム湖がある。

ゆっくり、歩いて 1 時間半ほどで上油野の集落に入る。



振り返った下油野の集落 2008. 3. 15.
周囲の春の山と川の青のコントラストが素晴らしい



上油野の集落周辺 右 三室川ダムの標識



上油野のY字路 三室川ダムへは右へ登ってゆく



和牛がいる この地は備中牛の本場



橋に大蛇退治の図

道路脇の見上げた石垣の家に和牛がいる 先ほど道端に「畜魂」の碑もありました ここは備中牛の本場

道路脇の見上げた石垣の家に和牛がいる。そういえば、先ほど道端に「畜魂」の碑もありました。

この家の人が言うには ここは備中牛の本場。足立の東側 千屋が「千屋牛」として有名ですが、ここもすぐ隣。そして、千屋牛の開発にたたら製鉄に関係した人がいたというが、この油野もたたら地。Y字路のところで三室川にかかる橋には大蛇退治の図がえがかれている。このY字路を左へ林道を行けば、たたら跡があると土地の人が言う。

多分 大成山たたらよりも少し古いといわれる近世のたたら京坊たたら跡のようだ。

Y字路を右へ 集落から離れ、三室川に沿ってよいよダム湖への山登り。三室川に沿って、少しの掘ったところで、川から離れて山の斜面に大きくループを描いて一気に標高差約100mほどを登ってゆく。

上油野の集落から、20分ほどで、ループを登りきると道は緩やかになり、行く手にダムサイトとダム湖が見え、山越にチラッとまだ、雪をいいたきれいなピラミッドの姿の三国山がチラッと見え、程なく静かなダムサイトにいたった。

そして、道はダムサイトからダム湖に沿ってそのまま山の

頂上部斜面を縫いながらトンネルを抜けて三室集落から広島県側の東城へと抜けてゆく。



上油野の集落からダムへ登る標高差約100m 弱のループ



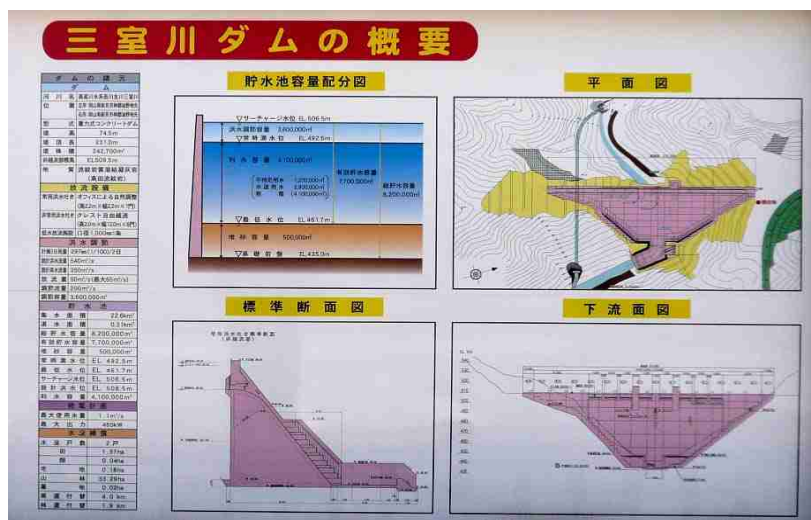
ループの上から見た上油野 春の山 2008.3.15.



三室川ダムとダム湖 ダムは雪解けの大量の水を豪快に放流 紺碧湖面は鏡のよう 静かに春の山を映していた

三室川ダムは標高差約100メートルほどの深い三室川の谷間をせき止めてできた洪水調整や上水確保を目的としたダム湖で、周囲の山々の頂上部が周囲を取り囲み、芽吹き始めた山々の姿を紺碧の水に映している。まったく人がいない静寂の世界で、このダム湖のすぐ前の水の中に近世の大成山たたら跡が沈んでいる。芽吹き始めた山にはまだところどころに残雪があり、中国山地の最深部であることを思い起こさせてくれる。一度着たかった場所 やっとこれました。

ダムサイトにはダム事務所があり、ダム湖の周りには回遊道路が整備された公園になっていて、ダム湖が一周できる。ダムサイトの傍らに このダムの説明の看板があり、ダムの概要が記されている。平成18年4月に完成したところである。



ダム湖の一番南側よりダムサイト・ダム湖 ダムサイト左の事務所の下から左の湖面に大成山たたら跡が沈んでいる

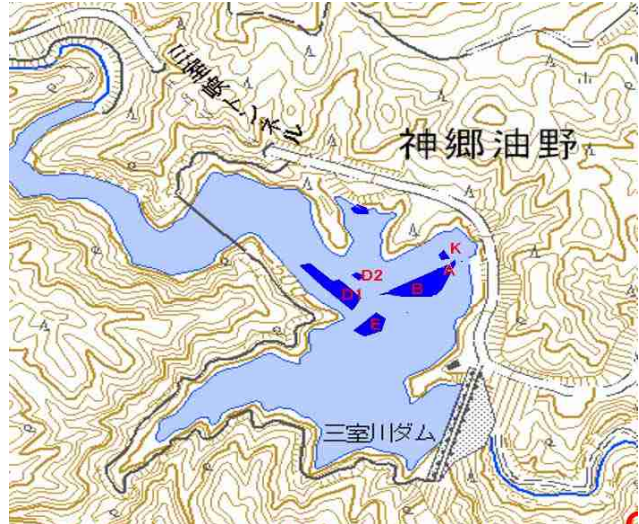
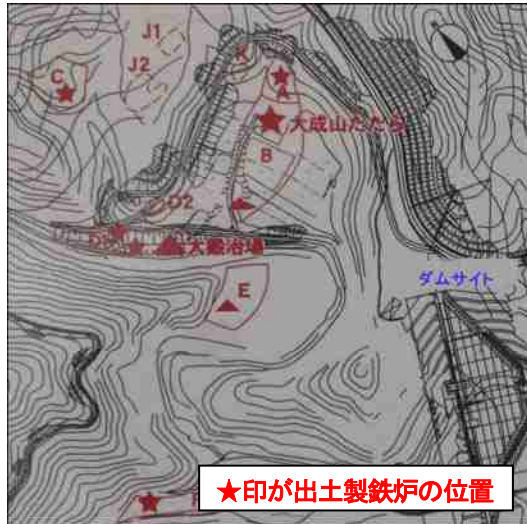
ダム湖は今登ってきた道に沿って東西に伸びる深い谷を流れている三室川をせき止めて作られているので、細長い湖。大成山製鉄遺跡についての説明板がダムサイトの事務所のすぐ横の湖の岸に立っており、大成山たたら跡の遺構の位置と概要が記され、湖に沈んだ鍛冶場の鍛冶炉が2基このダムサイトに移されて復元されている。すぐ前の岸辺の湖面が大成山のたたら跡である。



ダムサイトに移設された復元鍛冶炉と大成山たたら跡の説明版

3. 三室川ダム湖に沈んでいる「大成山製鉄遺跡群」

湖岸にある大成山たたら跡の説明板 と 光永真一著「たたら製鉄」より整理



正面のダム湖の中が三室川が西から東へ流れ下る谷筋で、そこに流れ落ちる枝谷 大成山谷との出会いの山裾に中世から近世のたたら製鉄跡群が沈んでいる。特にB地区からは 近世のきっちりとした小舟の炉床構造を持った製鉄炉とそれを中心とした高殿が出土。また、D地区からは大鍛冶場跡が出土するなど、近世 備中高松藩(高梁)の重要な鉄山「三室山鉄山」の中心であった。

吉備考古ライブラリー 光永真一著「たたら製鉄」にこの大成山たたら跡の発掘調査の様子を含め、概要がまとめて紹介されている。

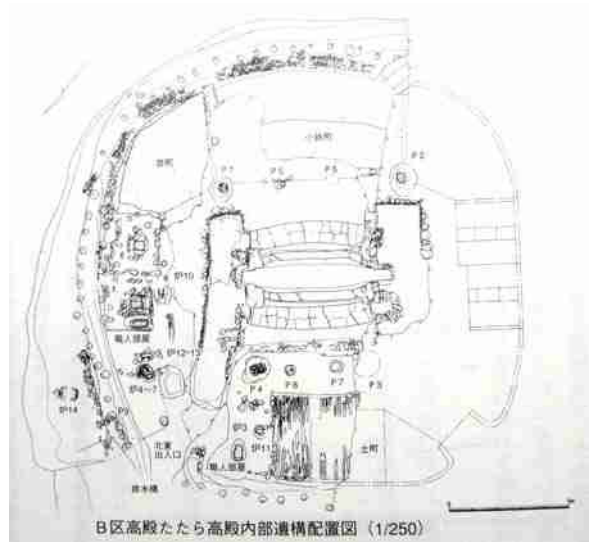
この大成山たたら遺跡のある上油野地区には 1853 年に開かれた大成山たたらが明治まで操業されていたことが文献にあり、地区内に何箇所か鉄滓の散在地が知られていたが場所は不明であった。そして、三室川ダム建設に伴い、地元有志の発掘により、巨大な近世のたたら炉の床釣り構造が発見されたのを契機に大規模な発掘調査が実施され、大成山たたら全貌が明らかにされたという。

三室川ダム建設に伴って発掘調査を実施した新見市大成山たたら遺跡群では、中世から近代にかけての操業時期の異なる七つの製鉄関連の遺構(製鉄場や大鍛冶場、砂鉄洗い場などの施設)を確認。特にB地区からは幕末から明治時代に操業された高殿たたら巨大な床釣り構造が残る巨大な製鉄遺構が発掘された。

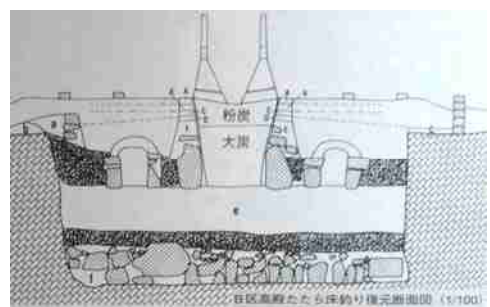
また、D地区からは 20 を超える鍛冶炉が重なる鍛冶場遺構が出土。ダムサイトにこの鍛冶場から出土した鍛冶炉 2 基が展示されている。この地で生産された鉄素材は、鍛冶屋で釘や農耕具などの製品に加工されて、城下から江戸に回送して売却されたものと思われ、備中松山藩の財政改革の一助となっていたと考えられている。

大成山たたら製鉄遺跡群 出土遺構の整理 光永真一著「たたら製鉄」より

A 地区	<p>製鉄場（17世紀代 江戸初期）</p> <p>床釣り構造を持つ製鉄炉に本床構造はさんで、4本の柱穴が検出され、初期の高殿遺構の形を成す。本床遺構は石組を持たず、粘土壁。小舟はF地区のものより少し大きくなっているがこの小舟も焼かれていない。</p>
B 地区	<p>製鉄場（江戸時代）</p> <p>約18m四方の高殿遺構 中に10X6.5X2.7mの穴に 本床・小舟などの床釣り構造が築かれたたら炉が設置されていた。また、本床・小舟が築かれる面には隙間なく敷き詰められた礫の上に鉄滓が20cmの厚さに敷き詰められていた。</p> <p>また、高殿より一段下がったところで、砂鉄洗い場が見ついている。</p> <p>大鍛冶場（江戸時代）</p> <p>2基の鍛冶炉 本場炉と左下場炉の2種の鍛冶炉の長軸が平行におかれ、D地区と異なる特徴</p>
C 地区	<p>製鉄場（戦国から江戸時代初）</p> <p>床釣り構造の最も古い中央の溝に丁寧な工夫のされた3本の溝状が掘られ、本床・小舟の原初的構造をなす製鉄炉が出土</p>
D 地区	<p>製鉄場（鎌倉時代 & 江戸時代） 大鍛冶場（江戸時代） 遺構で製鉄炉3基 大鍛冶炉20基が出土</p> <p>製鉄場（鎌倉時代 & 江戸時代）</p> <p>3製鉄炉は次の時代の異なる3基が出土</p> <ol style="list-style-type: none"> 江戸時代の製鉄炉 床釣り構造を持つ江戸時代の遺構であるが、B地区の同種製鉄炉よりも貧弱で高殿の構造もほとんどわからず。B地区の製鉄炉よりも古いと考えられている。 時期不明の製鉄炉 この地区遺構の最下層にあった製鉄炉で方形に近い深さ約40cm土孔で、底面の薄い炭層や製錬滓の存在から製鉄炉と認識されたが時期不明 11～14世紀 中世の製鉄炉 長軸を川に平行に約4m長さX1.4m幅の粉炭層が検出されこの中央部に約140cm長X50cm幅の範囲に粘土がはられ、11～14世紀の製鉄炉と判断 <p>大鍛冶場（江戸時代）</p> <p>この20基の大鍛冶炉は本場炉と左下場炉の2種の組で分けられ、大鍛冶炉に伴う鉄砧石（テツチンイシ）とともに6つの鍛冶場に整理された</p>
E 地区	<p>大鍛冶場</p> <p>4基の鍛冶炉 本場炉と左下場炉の2種の鍛冶炉の長軸が平行におかれ、D地区と異なる特徴</p>
F 地区	<p>製鉄場（戦国から江戸時代初）</p> <p>C地区に続く床釣り構造を持つ製鉄炉で、本床相当部分の側壁に石が使用され、小舟の溝もまだやかかれていない製鉄炉</p>
J 地区	<p>光永真一著「たたら製鉄」にはJ地区が記載されているが、遺構の記述なくよくわからない。</p>
<p>◎ 江戸時代から明治へ続いた「大成山たたら」の「山内」</p> <p>B地区で発見された高殿を中心において考えると、元小屋は特定できなかったが、B地区で発見された高殿と川沿いのD地区の大鍛冶場と下小屋で構成されていたと考えられる。</p>	



B区高殿たたら高殿内部遺構配置図 (1/250)



B区高殿たたら床釣り復元断面図 (1/100)



床釣り断面



本床と小舟



地下構造

大成山たたら B 地区高殿たたら製の鉄炉



図100 D1区主要遺構配置図 (1/400)



約20基の鍛冶炉が重なり合って出土した 大成山たたら D1 地区主要鍛冶遺構と
ダムサイトに復元された鍛冶炉 (本場炉と下左炉 二つの炉が直角に置かれている)

湖の岸に立っている大成山製鉄遺跡についての説明板に、大成山たたら跡の遺構の位置と概要が記され、湖に沈んだ鍛冶場の鍛冶炉が2基このダムサイトに移されて復元されている。

この説明板によれば、大成山たたら遺跡群は 水没地の D 地区で鎌倉時代に製鉄が始められ、その後 C区 F区 A区で 戦国時代から江戸時代の初めまで、続けられ、再び D 区を経て B 区で 1853 年操業を開始した大成山たたらが明治年間に操業をやめるまで、約 500 年間にわたり、断続的に続いた。(なお 光永真一著「たたら製鉄」には J 地区が記載されているが、記述なくよくわからない。)



江戸時代から明治へ続いた「大成山たたら」の「山内」の視点で考えると、大成谷と三室川の流れる本谷との出会いの地区 出会いから大成谷へ少し入った斜面上にある B 地区の高殿を中心に、元出会いの川沿いにある D 地区の大鍛冶場と下小屋で構成されていたと考えられる。



★印が出土製鉄炉の位置



ダム湖に沈んだ大成山たたら湖をダム湖の西側から見る 正面湖面に遺跡がある 右端がダム事務所

湖岸に座り込んで、コンパスで方向を合わせながら 地図と遺構図と地形を見比べながら湖に沈んだたたら遺跡の遺構をイメージする。もう すぐ前の湖面に遺跡が沈んでいる。

赤い柵が斜めに湖へ落ちているところが、大成山たたらのある大成谷への旧道で、そのすぐ左 橋のかかっているところが、大成谷である。この橋の向こうから半島のように岬が突き出ている。この半島の斜面に沿って湖の中が高殿のある B 地区 半島の先の湖面が大鍛冶場があった D 地区で これらの周辺が江戸期の大成山たたら山内が形成されていたところである。

また、D 地区大鍛冶場にあった鍛冶炉が 2 つ移設復元されているが、あまりにも人工的で迫力なし。

4. まだ残雪のある湖岸の道を一周

ほぼ大成山たたら遺跡群の位置関係が頭に入ったので、うまく行けば、遺跡のある大成谷周辺で鉄滓など見つけることが知れないと地図を片手に湖岸を1週することにして歩き出す。

公園出たところで、すぐ湖の岸へ下ってゆく道があるが、湖の中に道が水没している。これが地図にある旧道のようなだ。

もう少し水位が下がれば、遺構が顔を出しそうなレベルのようですが、完全に水没している。

元のダムから湖岸に沿ってつけられた道を歩き出すとすぐに斜面下にたたら遺構が眠る半島の手前のところ

がそのまま右手の山側まで谷となって切れ込んでいて、長さ10mほどの小さな橋が架かっている。橋の欄干の一方には「大成橋」と書かれ、一方には「大成谷川」と書かれ、事代主命のデザインの絵がはめ込まれている。

橋のところより湖側は急傾斜で落ち込んでいるが、反対側の山側はすぐ山の斜面で、小さな谷が奥に伸び、橋のところから奥へ小道が延びている。

ちょうどこの谷の斜面に沿って、今は水没している場所に高殿があった。この谷筋の風がたたらに利用されたのだろう。



大成谷にかかる橋 この湖面側のした今は水没した谷に高殿があった

橋を渡ってすぐ、湖面に半島となって突き出たところで樹木が伐採され、切り開かれている。

ちょうどこの道路が通っている地点がJ地区と呼ばれるあたりで、新しい発掘でもされるのかとこの半島の中にブルドーザーが通った道が入っていましたが、突き出た半島の上は雑草と雑木に覆われ、下へ降りる道もなく、この地点でたたら痕跡を見つけることはできませんでした。



この半島のすぐ西にトンネルがあり、道路はそのままトンネルを抜け、三室川の流れに沿って三室の集落から広島県側へと抜けてゆく。このトンネルの手前から立派な湖岸回遊道が付けられ、湖の一部である三室川の本流を渡り、対岸の急な山の斜面に取り付けられた道を一周して反対側のダムサイトに戻ってこられる。

この対岸側は複雑に入り組んだ谷の地形と急斜面の山に谷の日陰側になり、残雪が残り、まだ冬。

途中 ところどころで、雪解け水が滝となって噴出している。また この湖の最奥部から流れ出した谷川の入り口に夫婦の滝の標識があり、雪道でしたが、しっかりした道がたどると その奥に気持ちのいい二条の滝がかかっていた。

思わぬ残雪の山歩きも楽しんで、1時間ほどでダム湖を1週して ダムの上をわたって、元の事務所のところへ帰ってきました。

以下 湖岸の周回道路でみた湖や滝の写真です。

● 三室山回遊道路 Walk スナップ

a. 三室川の谷を渡って 南側 夫婦滝がある最奥部へ



① 下に旧道が顔を出している



② 三室川の谷を渡る



③ 正面に大成谷が見える



④ 正面にダムサイト



⑤ 西側最奥 夫婦の滝のある谷を回りこむ



⑥ 日陰に残る残雪が多くなる 東の奥にダムサイトが見える

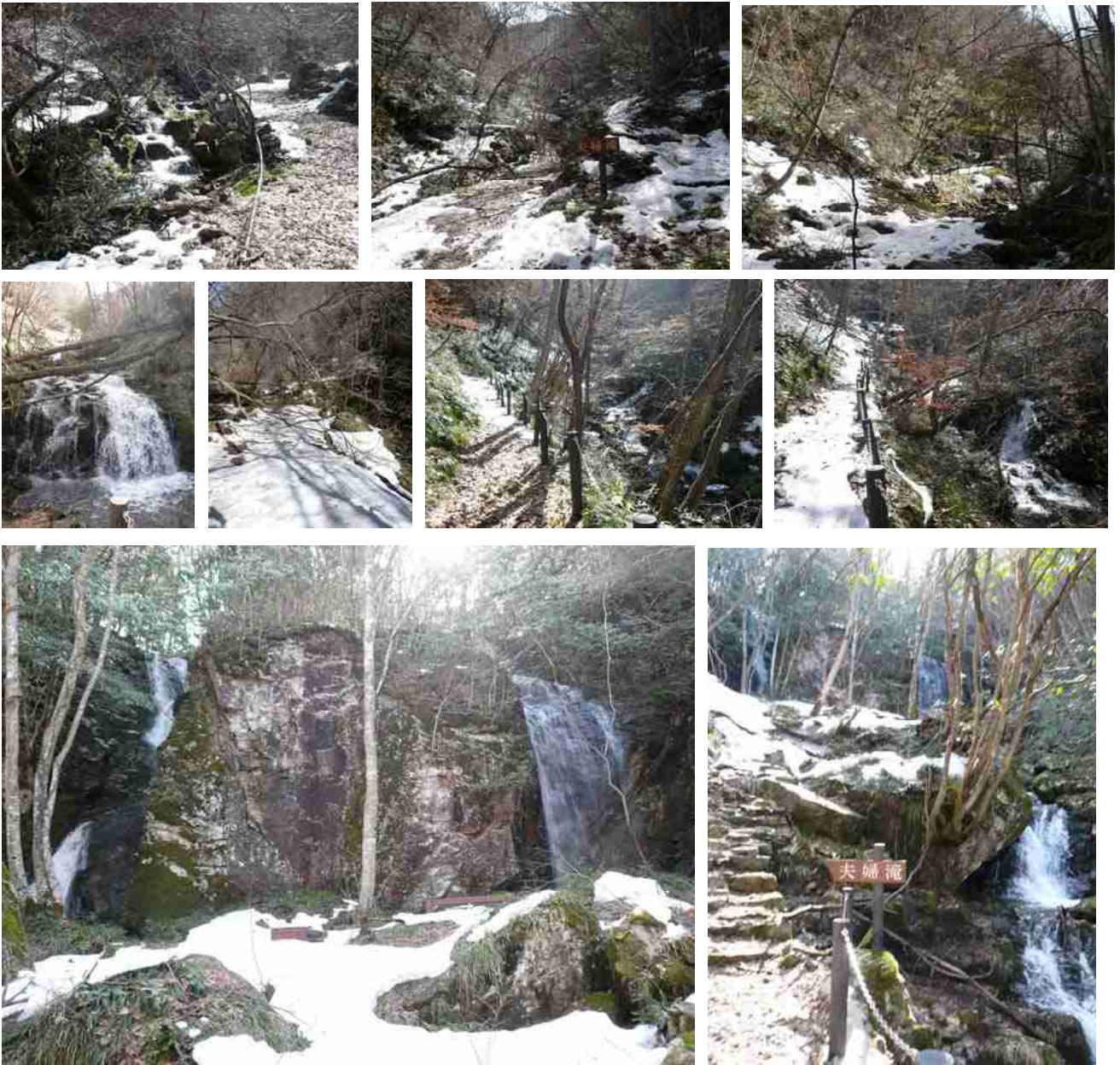


⑦ 右手の壁から滝がかかっている 冷たい水がおいしい



⑧ 湖最奥の谷 谷の中は之で一杯である

b. 湖の南の谷の最奥部から 谷を少し遡って 夫婦滝へ



三室川ダム湖 南側最奥の谷の奥にかかる 夫婦滝 2008.3.15.

c. 南側最奥部から ダムサイトへ



ダムの取水口の真上からはトウトウと流れ落ちる水、周りの山は芽吹き春の山を独り占め

5. 三室川ダムから 油野の郷に下って 神代へ

大成山たたら walk 一日をふりかえって 備中牛は 近世たたら遺跡の痕跡か……

三室川ダムサイトに戻ると午後2時前、そのままさらに奥の三室へゆか 元来た道を引き返すか……

上油野までおりて、バス停でバスの時間をみるとやっぱり、5時を廻らないとバスなし。

今朝 話を聞いたたたら遺跡が残っているという京坊峠越から神代へ行く道もあるのですが、どうもよくわからず。地図から見ると完全な山越えの山道になるので、あきらめてもと来た道を足立駅に出て、神代へ。朝降りた足立駅の川のところにバス停があったのを思い出して、「うまいこと行けば、新見・神代までバスに乗れるかもしれない」と淡い希望を持ったのですが、ダメで 結局 JR 神代駅まで約3時間ほど歩きました。

交通の便さえあれば、もう少し動けるのですが、この時間 朝出発した足立駅まで 戻っても都合のよい電車なし。

山奥のすごさです。年々 町の統合が進むにつれ、過疎地の相互交通は益々厳しくなっている。

朝 道端の側溝に磁石を入れると砂鉄が少しついてきたのを思い出して、道端の露出している岩肌に磁石を近づけると以外にも灰色の少し青みを帯びた岩に磁石が引っつく。

この三室川沿いで砂鉄を見つけることが、できなかったが、周辺の山の岩には砂鉄が含まれている。

やっぱり この周辺でも 山が切り崩されたのだろう。



油野周辺で 道ぎわの岩に磁石を近づけると 思いもかけず 磁石が吸い付きました 2008.3.15.

「藤」がつく地名が砂鉄採取と関係する製鉄関連地名だという話に半信半疑でしたが、この川筋にも「重藤」集落の地名があり、重藤から北にはいった吉田川の谷筋にも昔たたら跡があったという土地の人の話にも現実味が帯びてくる。

大成山たたら製鉄遺跡群のみが突如この谷に現れることに疑問を持っておってきたのですが、今はこの谷筋の人たちにも忘れ去られようとしているが、点々とたたら製鉄の関連地があったのだろう。

西川を挟んで東側の山間で飼育される 備中牛のブランド「千屋牛」が昔たたら製鉄と関係する人たちにより改良されたというが、今この谷でも「和牛 備中牛」の飼育が盛んであり、この谷の「備中牛」そのものが、この地で繁栄した近世のたたら製鉄の痕跡であるかもしれない。

今日はもう訪ねることはできないが、東側の同じ神郷町の「千屋」周辺にも訪ねたい。



北播磨の製鉄地帯を支えた砂鉄採取地 砥峰高原



備中 新見神郷 砂鉄採取跡 旧家村地区 (点々と鉄穴 砂鉄採取地点が続く) http://temari.net/tatara/hogomon/hogomon_3h.htmより

砂鉄採取跡が人工的な広大な高原状地形となって残る 北播磨 砥峰高原や備中 新見 旧家村地区

倉敷の TKN さんの HP「てまりネット -岡山のたたら製鉄-」 http://temari.net/tatara/tatara_idx.htm によると「千屋周辺 砂鉄採取で切り崩されて高原状になった地形のところには点々と鉄穴が連なり、周辺の山間を歩くと鉄滓を拾える」という。

地図を調べると西播磨の製鉄地帯の真ん中であって、砂鉄採取により作られた美しい残丘の景色が有名な砥峰高原と本当によく似た景色。

うまいステーキを食べるのも魅力。是非 足す寝てみたいと思う。

足立駅でも やはり電車はなく、じっと駅で2時間近く待つのもいやで、谷あいの流れ下る西川を眺めながら 神代駅まで歩く。
神代駅到着は もう夕暮れ近く。

中国山地の最奥部 広島・岡山・鳥取・島根の4県の県境が重なる県境尾根近く備中の最奥部。

一度 是非 みたかった「新見」のたたら製鉄地帯 満足のたたら Walk でした。

ダム湖に沈んだ近世のたたら「大成山たたら跡」 どんな山深い場所か・・・と書いていましたが意外にも明るい広い谷あいのドンつき、芽吹き of 早春の山に囲まれて、湖の中に沈んでいました。

備中といえば、古くからの製鉄地帯で、しかも「新見」は日本海側と瀬戸内をつなぐ中国山地の中心地 この新見周辺にも古代たたら跡が見られるかとも考えましたが、今回はそれにあらず。

でも この新見周辺のたたら製鉄は江戸期隆盛を極め、備中松山藩の財政再建の中心になったこと 揖保川流域と赤穂 太田川流域と広島などと同様 この高梁川流域と倉敷・児島湾でも 江戸期上流部の砂鉄採取が大量の土砂を河口近くに堆積し、河口の街を作り上げて言ったことを知りました。また、この中国山地でのたたら製鉄・砂鉄採取による山の切りくずしが 岡山の名産「和牛肉 備中牛・千屋牛」を作り上げていったという。初めて聞いたたたら製鉄との因縁話でした。色々知らなかった備中 中国山地の話が聞けて びっくり出した。

また、周りはモノトーンの中に芽吹き of 緑が少し混じり始めた早春の淡い山の中 雪解け水を集めて白い水しぶきを上げながらトウトウと山間を流れ下る紺碧の高梁川。久しぶりに見る美しい川の景色。

一日 山郷を歩いて 早春の里山・川を本当に堪能した一日でした。

でも もう夕日も落ちて 薄暮の駅 昔の賑わいもなく 人気のないホームに一人電車を待つ。青春18切符では この電車のがすと今日中に神戸には帰りつかない 旧の街の中心でもある神代駅 伯備線と芸備線の分岐駅でもある。一人ぐらいほかに乗る人いるやろと思いましたがなしてした。

過疎化のスピードのすごさ 平成の合併か名前ばかりでなく、旧の町の中心がなくなり、駅はもはや町の中心でも顔でもなくなり、それぞれの町が相互に必死で守ってきた 交通の足さえも奪われてしまった現実にびっくりです。

効率化したらあかんものもある 歩いた遠さにひしひしそれを感じました。

田舎の現実を知るよい機会にもなりました。



2008. 3.15. 夕 by Mutsu Nakanishi

真っ暗になりかけた伯備線神代駅で ひとり電車を待ちながら

参考資料

1. 岡山県民局発行 「鉄の径」 <http://www.native-kurashiki.jp/union/series.html>
2. 吉備考古ライブラリー・10 光永真一著「たたら製鉄」 吉備人出版